

研究ノート

住友銅吹所跡保存運動の記録

庄谷 邦幸

キーワード：銅吹所，保存運動，住友銀行，産業技術，考古学

はじめに

1990年、旧住友銀行は大阪市中央区島之内1丁目の住友銀行社員寮跡地に事務センターを建設することになり、これに対応し、大阪市教育委員会、および大阪市文化財協会が緊急調査に着手し、1990年5月から1992年5月まで実施した。この調査により、多くのfact-findingがなされた。その成果は後述の大阪市文化財協会編『住友銅吹所跡発掘調査報告』（1998年3月刊）に結実している。

1990年5月から開始された発掘調査が進むにつれ、この遺構がきわめて重要な文化遺産であることが次第に明らかになり、各新聞社も同年10月～12月にかけて詳しく報道した。

同年10月7日、大阪府堺市で開かれていた産業考古学会全国大会総会において、住友銅吹所跡発掘調査の中間報告があり、それについて討議した結果、保存要望を住友銀行や行政機関に提出することが決議された。

同年10月29日、産業考古学会、日本産業技術史学会代表が住友銀行本店を訪問し、「旧住友銅吹所遺構の保存と活用について（お願い）」の文書を手渡した（資料①参照）。同日、同趣旨の要望を大阪市長、大阪府知事にも提出した。

また、大阪歴史学会、大阪歴史科学協議会も同趣旨の保存要望を住友銀行に提出した。

これら4学会は発掘調査の進展と並行して旧住友銅吹所に関する研究会、公開シンポジウムを開催しつつ、開発者である住友銀行と、文化財保護に関わる行政機関への要望をおこなっていった。今回このような保存運動の記録をまとめておきたいと思い、保存運動の事務局の一員であった筆者の記録に基づいてその経過を略記したい。(この記録は桃山学院大学総合研究所発行の『大阪の産業記念物』13号、14号、15号、24号に掲載された筆者の記録を加筆した。)

I 住友銅吹所跡の保存運動の経過

最初に、住友銅吹所跡という歴史的文化的遺跡の開発者(住友銀行)文化財保護行政実施機関および調査実施機関(大阪市および大阪市文化財協会)保存運動(学会等)の行動記録とそれらの資料(ドキュメント)を年次別に略記したい。

<1990年>

- 5月7日(月) 財団法人・大阪市文化財協会、発掘調査開始。
- 10月7日(日) 産業考古学会全国大会(於堺市 大阪府立大学)総会において、住友銅吹所発掘調査結果(中間報告)があり、保存要望が決議された。
- 10月13日(土) 大阪市教育委員会、大阪市文化財協会による一般市民向けの「現地説明会」開催(700名参加)。
- 10月18日(木) 英国アイアンブリッジゴージ博物館長スチュアート・スミス氏が、島根県吉田村での催物(記念講演)の後、大阪へ立寄り、住友銅吹所跡を見学、「これは人類共有の産業遺産である」と評価した。
- 10月29日(月) 産業考古学会、日本産業技術史学会代表が住友銀行本店を訪問、

住友銅吹所跡保存運動の記録

「旧住友銅吹所遺構の保存と活用について（お願い）」の文書（資料①）を手渡す。同日、同趣旨の内容を大阪市長、大阪府知事にも提出。

資料①

1990年10月29日

株式会社 住友銀行
頭取 巽 外 夫 殿

日本産業技術史学会
会 長 吉 田 光 邦
産業考古学会
会 長 金 子 六 郎

旧住友銅吹所遺構の保存と活用について（お願い）

時下ますますご清栄のこととお慶びを申し上げます。さて、このたび貴社が事務センター建設を予定されておられる大阪市中央区の旧住友銅吹所跡は、近世の銅精錬所遺構として記録の上から歴史的意味が大きいことが知られておりましたが、現在進行中の大阪市文化財協会による発掘調査で重要な発見が続いており、地下深くに残されたそのほぼ完全な姿は、わが国はもとより世界的にもたぐいまれな重要遺構であることが分かって参りました。

旧住友銅吹所の活動は住友家の経済、産業活動を支えたのみではなく、近世日本における金属精錬技術の水準の高さを如実にみせるものであったことをこの遺構は十分に物語っております。ここは、現在、貴社と同じグループに属される住友金属鉱山株式会社を中心となって保存修景計画を進められておられる別子鉱山から産出した鉱石を精錬した中心的な施設であり、両者を一体化して捉えることによって、18世紀初頭には世界最大級を誇った施設とその技術面での質の高さを証明する鍵を握るモ

ニュメントでもあります。

私どもは産業技術史あるいは産業遺産の保護保存に高い関心を持つものとして、貴社の経済活動拡張の必要性は理解を致しますが、貴社のご計画とこのかけがえのない文化遺産の保存と活用の両立が成り立つよう格別のご配慮を賜りますよう、両学会会員の総意にもとづき、お願い申し上げます。

11月22日(木) 「住友銅吹所を考える」シンポジウムを産業考古学会、産業技術史学会共催で開く(大阪市上六、なにわ会館)。市民、研究者など150名参加。

基調報告は次の3氏である。

- (1) 住友銅吹所の技術(吉田光邦氏)
- (2) 住友銅吹所発掘調査の成果(鈴木秀典氏)
- (3) 江戸期住友の経営と大阪経済(作道洋太郎氏)

この後自由討議に入り、この遺構の学術的意義が高いこと、そのため完全保存の要望が強く出された。

11月28日(水) 上記11月22日のシンポジウムの後、産業考古学会と産業技術史学会は、再び連名で住友銀行頭取巽外夫氏あてに「住友銅吹所遺構の十分な調査と保存について(お願い)」を提出。同じ頃、大阪歴史学会、大阪歴史科学協議会も同じ趣旨の要望書を住友銀行に提出。この4学会は、銀行の他に住友グループ(白水会)20社の社長、文化庁長官、大阪市長、大阪府知事にも保存要望を送付した。

12月21日(金) (財)大阪市文化財協会は「住友銅吹所跡調査専門委員会」の初会合を開く。

12月21日(金) 午後4～6時 上記4学会代表と住友銀行総務部、管財部代表と会談。

12月26日(水) 第1回住友長堀銅吹所研究会を開催(大阪府立労働センター)。

住友銅吹所跡保存運動の記録

報告は「住友銅吹所の作業工程」(内田俊秀氏)。

<1991年>

- 1月10日～21日 住友銀行は保存要望を提出した4学会と個別に会談。
- 1月26日(土) 第2回住友長堀銅吹所研究会を開催(大阪グランドホテル)。報告は「江戸時代の産銅業と住友銅吹所」(今井典子氏)。
- 2月16日(土) 第3回住友長堀銅吹所研究会を開催(国民会館・住友生命ビル・小ホール)。報告は①「近世都市大阪の発掘と保存」(佐久間貴士氏) ②「住友長堀銅吹所保存利用計画試案」(森田恒之氏)。
- 3月10日(日) 住友長堀銅吹所を考える(第2回)シンポジウムを開催(国民会館・住友生命ビル・大ホール)。報告は①「住友銅吹所をめぐる経過」(三宅宏司氏) ②「近世大坂における経済と銅吹所」(今井修平氏) ③「るつぼ・炉 銅吹所の仕事」(内田俊秀氏) ④「大坂上方文化をはぐくんだもの 長堀と銅吹所」(葉賀七三男氏)。
- 4月3日(水) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 4月6日(土) 官浪辰夫氏から「大坂屋」資料を見せてもらう(学会関係者5名、大阪梅田KBS)。
- 4月11日(木) 住友銀行管財部長、総務部次長ら(5名)と、日本産業技術史学会、産業考古学会、大阪歴史学会、大阪歴史科学協議会、日本史研究会等(12名)と住友長堀銅吹所跡保存について話合う。大阪市教育委員会文化財保護課(3名)も参加(大阪市中之島公会堂食堂別室)。
- 4月13日(土) 大阪市教育委員会、大阪市文化財協会主催の第2回住友長堀銅吹所現地説明会が市民向けに開催された。
- 4月18日(木) 朝日新聞(夕刊)に「大坂屋の記録、14代宅で発見」の記事報道された。
- 4月23日(火) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。

資料②

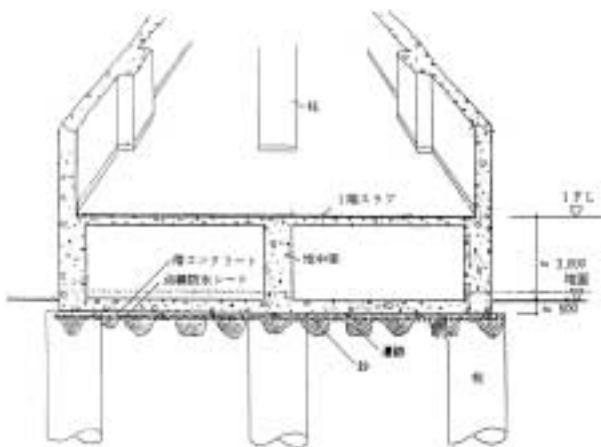
大阪市教育委員会の保存案（1991 .7 .8）

事務センターの建設にあたっては、遺構の破壊を最小限にし、長期的な観点にたつて保存することを最優先するため、次のとおり、建築方法等に特別な配慮を行うこと。

- (1) 住友銅吹所跡敷地のうち、東部分4分の1は、公開空地として遺構を完全保存するとともに、市民に開放した公園的な整備を図ること。
- (2) 事務センターの建設にあたっては、地下構造物を必要最小限におさえること。
- (3) 遺構に影響を与えないよう、建物荷重を柱に集中させるなどの工法を用いること。

広く市民に公開するため、当時の住友家や銅吹所の様子を出土品や映像で説明する資料展示室をセンター内に設置すること。

敷地東部分にあるビリヤード場は、現存する日本最古といわれるものであり修理・保存し、一般公開すること。



大阪市教育委員会の保存案（イメージ図）

住友銅吹所跡保存運動の記録

- 4月24日(水) 第4回住友長堀銅吹所研究会を開催。報告は松井 章氏(国立奈良文化財研究所)「都市再開発と遺跡の保存・活用 イギリスを中心に」(大阪府立労働センター)。
- 4月27日(土) 大阪市教育長・福岡康司氏と学会が住友長堀銅吹所跡保存について話し合い(学会側9名、教育委員会4名、東洋陶磁美術館)。
- 5月7日(火) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 5月11日(土) 大阪市教育委員会文化財保護課長と学会側との話し合い(4月27日の話し合いのフォローアップ、教育委員会)。
- 5月22日(水) 第5回住友長堀銅吹所研究会開催。報告は作道洋太郎氏(大阪大学名誉教授)「大阪の企業と文化」(大阪府立労働センター)。
- 5月30日(木) 毎日新聞(夕)文化欄に、作道洋太郎論文「大阪は歴史遺産を守れるのか 市当局と住友銀行の英断を期待」が掲載される。
- 6月3日(月) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 6月17日(月) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 6月26日(水) 第6回住友長堀銅吹所研究会開催。報告は谷 直樹氏(大阪市大)「大坂の町家と住友家の建築」(大阪府立労働センター)。
- 7月3日(水) 大阪市長西尾正也氏と4学会代表懇談。4学会の要望書を手渡す。その後記者会見。大阪市長に手渡した要望書の趣旨と同じ内容の文書を住友銀行頭取巽 外夫氏宛に郵送した。
- 7月8日(月) 大阪市教育長福岡康司氏は住友銀行専務臼井孝之氏を大阪市役所に招き、大阪市の「保存案」(資料②)を提示した。その後直後に、4学会代表を招き、住友銀行に提示した内容を説明した。その場で、4学会代表はその案に不満を表明。その後4学会代表は記者会見。
- 7月9日(火) 各新聞は一斉に前日の大阪市の「保存案」を報道。
- 7月23日(火) 第7回住友長堀銅吹所研究会開催。藤野明氏(大阪市大名誉教授)「南蛮吹きをめぐって」(大阪府立労働センター)。
- 8月1日(木) 産経新聞 中岡哲郎論文「“銅吹所” 遺跡が語る町人文化 鎖国

の時代に世界と結ぶ」を掲載。

8月30日(金) 毎日新聞 住友長堀銅吹所跡保存の経過について解説記事を掲載。

9月26日(木) 朝日新聞「大阪市は9月25日、住友銅吹所跡の敷地を都市計画法の特定街区に指定する方針を決めた」と報道。

(注)

その後、大阪市文化財協会による追加的「発掘調査」がおこなわれた(1991年11月～92年1月31日)。これは、建設予定の「事務センター」の建設基礎部分の柱設置場所(直径2.5m:深さ2～3m)を34カ所、および南側の既設電算機センターとの地下連絡通路にあたる部分で、4000㎡の敷地の内600㎡である。

10月16日(水) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。

11月7日(木) 4学会は大阪市教育委員会文化財保護課と懇談。その後の経過についての説明を受けた(大阪府立労働センター)。

11月20日(水) 第8回住友長堀銅吹所研究会開催。大阪市文化財協会の鈴木秀典氏による「住友長堀銅吹所発掘成果整理の中間報告」(大阪府立労働センター)。

12月24日(火) 住友長堀銅吹所跡が都市計画法による「特定街区」に指定された(資料③参照)。

資料③

大阪市告示第892号

都市計画法(昭和43年法律第100号)第19条第1項の規定により、大阪都市計画特定街区を決定したので、同法第20条第1項の規定により、告示し、同条第2項の規定により、当該都市計画の図書を公衆の縦覧に供する。

平成3年12月24日

大阪市長 西尾正也

住友銅吹所跡保存運動の記録

- 1 都市計画の種類 特定街区
- 2 都市計画の決定にかかる土地の区域
(島之内一丁目特定街区)
大阪市中央区島之内一丁目地内
- 4 縦覧場所
大阪市北区中之島一丁目 3 番 20 号

大阪市計画局計画部

< 1992年 >

- 1月31日(金) 住友銀行が4学会の要望書(1990年および1991年の全面保存の要望書)に対する文書回答があった(資料④参照)。
- 2月21日(金) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 3月27日(金) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 4月2日(木) 4学会は、3月末に大阪市教育委員会を通じて、デベロッパーである住友銀行に対する遺跡保存方法についての説明を求めたが、それに応じて説明会が開かれた。前半は(1)日建設計による「事務センター」の設計の概要の説明があり、ついで(2)「事務センター」建設のための産業遺構、産業記念物の保存のための工法の説明が鹿島建設からあり(資料⑥参照)後半ではこれに対する学会側からの質問がおこなわれた。当日の参加者は大阪市教育委員会(3名)、住友銀行(3名)、日建設計(2名)、鹿島建設(2名)、4学会代表(10名)であった(於、大阪市中之島中央公会堂第1会議室)。
- 4月15日(水) 大阪市教育委員会は「住友銅吹所跡の保存と活用について」を公表した(資料⑤参照)。翌日、各新聞はそれを掲載。
- 4月16日(木) 住友長堀銅吹所研究会事務局会議(なにわ会館)。
- 4月25日(土) 講演会「住友長堀銅吹所」が4学会により開催された。講演内容は(1)脇田 修(大阪大学教授)「住友長堀銅吹所の国際的意

義」、(2)松尾信裕(大阪市文化財協会主任)「住友長堀銅吹所跡の遺構と陶磁器」、(3)柴田正己(明治建築研究会代表)「住友家ピリヤード場とよみがえる近代建築」(スライド使用)。

資料④

日本産業技術史学会	会長代理	鎌谷親善殿
産業考古学会	会長	金子六郎殿
大阪歴史学会	代表委員	服部 敬殿
大阪歴史科学協議会	委員長	酒井 一殿

平成4年1月31日

株式会社住友銀行

管財部長 高橋 義昭

住友長堀銅吹所跡の保存に関する件

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

予て貴学会から弊行頭取宛ご要望のありました掲題に関し、担当部としてご回答申し上げます。

本件遺跡につきましては、弊行といたしましてもその重要性を充分認識し、可能な限り保存方工夫検討を重ねてまいりました。

平成3年7月8日に大阪市教育委員会から下記のような内容のご指導をいただき、弊行においても検討の結果これに沿って対処することといたしましたので、ご諒承下さるようお願い申し上げます。

記

大阪市教育委員会の指導事項

事務センターの建設にあたっては、遺構の破壊を最小限にし、長期的な観点にたって保存することを最優先するため、次のとおり、建築方法等に特別な配慮を行うこと。

(1)住友銅吹所跡敷地のうち、東部分4分の1は、公開空地として遺

住友銅吹所跡保存運動の記録

構を完全保存するとともに、市民に開放した公園的な整備を図ること。

(2)事務センターの建設にあたっては、地下構造物を必要最小限におさえること。

(3)遺構に影響を与えないよう、建物荷重を柱に集中させるなどの工法を用いること。

広く市民に公開するため、当時の住友家や銅吹所の様子を出土品や映像で説明する資料展示室をセンター内に設置すること。

敷地東部分にあるピリヤード場は、現存する日本最古といわれるものであり、修理・保存し、一般公開すること。

以上

資料⑤

平成 4 年 4 月
大阪市教育委員会
文化財保護課

住友銅吹所跡の保存と活用について

大阪市中央区島之内の住友銅吹所跡の発掘調査結果については、平成 2 年 10 月 8 日、平成 3 年 4 月 10 日の 2 度にわたり、既に発表してきているところですが、このほど、具体的な保存と活用について、住友銀行と協議がととのいました。

平成 2 年 5 月から 3 年 4 月まで、約 1 年間の埋蔵文化財の発掘調査で近世産業史の重要な遺構などが検出され、大阪市教育委員会としては、遺構の保存と活用について、平成 3 年 7 月 8 日、住友銀行に別紙(1)のような協力要請を行ってきたところです。

これを受けて、住友銀行は同遺構の保存のために、建設計画案の大幅な変更を行いました。具体的な保存と活用の内容については、下記のと

おります。

なお、この建設計画案にともない、遺構を保存しながら、土地の合理的な高度利用を行い、市街地の整備改善を図るため、平成3年12月24日、同地域は都市計画法上の特定街区に指定されています。

記

1. 遺構の保存について

- (1) 建物の東西の長さを短くし、更地で保存する範囲を敷地全体の4分の1、約1,100㎡にひろげる。〔当初計画では、更地面積は約800㎡〕
- (2) 遺構に荷重をかけない建物構造とする。
- (3) 地下構造物を必要最小限にするため、杭径を極力細くし、掘削部分は敷地面積の11.2%、約450㎡とする。
〔当初計画では、掘削面積は約2,850㎡〕

2. 保存工法について

- (1) 厚さ25cmの鉄筋コンクリートの保護地盤を作る。
- (2) 杭の施工にあたっては、遺構壁面保護のため鋼鉄のケーシングを入れ掘削する。

3. 地下金庫と推定される石組の穴蔵は、地下で保存するだけでなく、必要なときに見ることができるようにする。

4. ビリヤード場は当時の姿に復元し、敷地東部分の空地で保存し、活用を図る。

5. 敷地東部分の空地の遺構表示など、整備方法は今後協議をして具体化する。

なお、杭の部分など、補足発掘調査が必要となったところについて、炉跡など重要な遺構は樹脂で保護・摘出し、今後の調査・研究ならびに展示資料や標本として活用できるように配慮を図った。

〔注：資料⑤の別紙(1)の内容は資料④の「大阪市教育委員会の指導事項」と同じ。〕

資料⑥ 住友銀行鰻谷事務センター新築予定地における遺跡保護工事概要

(1) 遺跡保護対策

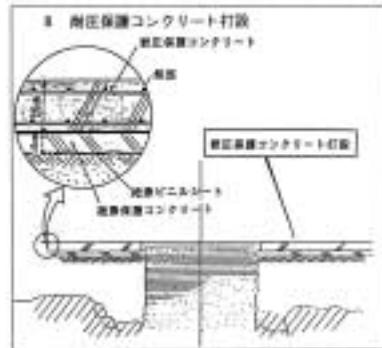
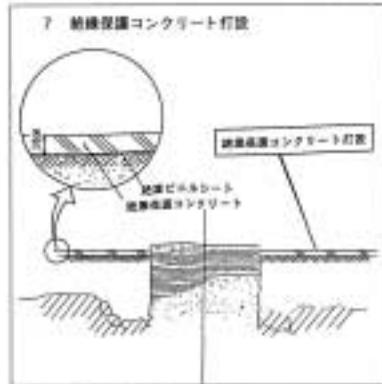
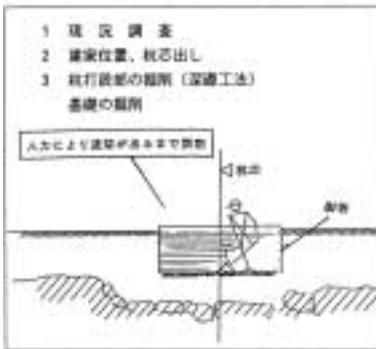
- 1 遺跡レベルを考慮し、遺跡保護床版の設置高さを上方へ変更。
- 2 炉の遺跡をウレタン養生にて保存（8ヶ所）。
- 3 旧住友家の礎石他、重要物の取りあげ保存。
- 4 杭打部に深礎囲枠を設置し、調査、周辺遺跡保護を実施。
- 5 基礎部に山止めを先行設置し、調査、周辺遺跡保護を実施。
- 6 遺跡保護床版を設置し、建物施工時に遺跡に影響を与えない様にする。
- 7 金庫室用地下室を設置する。
- 8 杭打時、鋼管を先行圧入し、周辺遺跡に影響を与えない様にする。
- 9 地下通路に対しトンネル工法を採用し、上部の遺跡を保存する。

(2) 遺跡保護工事のフロー

1. **現況調査**.....遺跡埋設深さ、保護床版設置高さ、建家基準高さの調整を行う。
↓
2. **建家位置、杭芯出し**.....設計図に基づき現場造成杭、基礎の予定位置を出す。
↓
3. **杭打設部の掘削（深礎工法）
基礎の掘削**.....側板をはめながら、遺跡が出るまで人力にて杭孔を掘削する。
↓
4. **記録、遺跡の保存**.....遺跡が出た時点で、調査員により記録（写真・
図面）し、炉、礎石他重要遺跡を保存する。
↓
5. **杭打設部埋戻し**
↓
6. **鋤取り**.....保護工事をするため、軽量小型ショベルにて仮復旧の埋戻し砂約15cm撤去致します。
↓
7. **絶縁保護コンクリート打設**.....遺跡と建家に絶縁のためビニールシートを敷込み、その上にコンクリート（厚さ10cm）を打設します。
↓
8. **耐圧保護コンクリート打設**.....杭打ち重機作業盤として鉄コンクリート（厚さ25cm）の耐圧床を構築致します。
↓
9. **杭工事**.....耐圧床の上で、杭打ち重機にて現場打ちコンクリート杭を造成します。
↓
10. **基礎工事**.....耐圧床より上で建物が造られます。
↓
11. **上部工事**

住友銅吹所跡保存運動の記録

(3) 遺跡保護工事のフロー



上述のように、1990年度から1992年度までの住友銅吹所発掘調査が終わり、その時点で、大阪市教育委員会は指導という形で、住友銀行の「事務センター」建設は容認するが、その建設にあたっては「遺構の破壊を最小限にし、長期的な観点にたって保存することを最優先するため」、建築方法等について特別の配慮をおこなう約束をした。また、住友銀行は、発掘の成果を市民にわかりやすく展示するため、銅の博物館を大阪市に寄贈する用意があるとの意向を示した。その後、大阪市は大阪歴史博物館を建設することになり、その常設展示空間の一部（9Fの南西コーナー）に住友銅吹所跡の展示と解説がなされることになった。

1998年3月、大阪市文化財協会によって『住友銅吹所跡発掘調査報告』が刊行された時点で、1990年からこの史跡の保存を訴えてきた4学会から、再度、開発者である住友銀行に要望書が提出された（産業考古学会の「要望書」を紹介したい資料⑦参照）。

資料⑦

2000年6月3日

株式会社住友銀行
頭取 西川善文殿

産業考古学会
会長 佐藤和雄

要 望 書

平成2年より翌年にかけておこなわれた、大阪市中央区島之内の住友長堀銅吹所跡の発掘調査では、江戸時代の住友本家の邸宅跡とともに、銅精錬所にまつわる遺構・遺物が多数発見され、大阪の歴史だけでなく、わが国の銅の生産史にとって極めて重要な遺跡であることが明らかになりました。われわれは、この世界的にも類まれな重要遺跡の全面保存をかねてより要望してまいりました。

住友銅吹所跡保存運動の記録

その結果、敷地の東側4分の1を完全保存するとともに、その他の部分についてもできるだけ遺構を破壊しないような工法を採用し、またピリヤード場を修理し保存するといった見解が示されました。これらの内容は完全保存を求めていた我々からすると十分とは言えないのですが、限られた条件下においてはやむを得ない措置であったと理解しています。

この時合わせて、発掘成果などを市民にわかりやすく展示するため、住友銀行が銅に関する博物館を建設し、大阪市に寄贈するといった意向が示されました。この資料室等の設置に当たっては、発掘成果を十分に検討したうえで展示内容を考える必要があるため、発掘調査報告書の刊行を待つ必要がありました。報告書はさる平成10年3月に刊行され、遺跡の重要性が改めて認識されました。

報告書の刊行から2年が経過しましたが、事務センター建設着工時に示された上記内容について、速やかに実施されますことを、ここに改めて要望いたします。

さらに、大阪歴史学会は、『住友銅吹所跡発掘調査報告』（1998年3月）が刊行された後、発掘調査10周年を迎えたことを機に、住友銅吹所跡の調査成果を再確認するために、2001年3月に見学会とシンポジウムを開催した（後援：大阪歴史科学協議会、産業考古学会、鑄造遺跡研究会）。シンポジウムでの研究報告は次の通り。

- (1) 松尾信裕氏（大阪市文化財協会）「住友銅吹所跡の発掘調査成果」
- (2) 今井典子氏（住友史料館）「住友銅吹所と大阪 技術とオランダ商館長応接をめぐって」
- (3) 長山雅一氏（流通科学大学）「住友銅吹所跡の保存と将来」

つづいて、上記報告者3人に、中川すがね氏（甲子園大学）、佐久間貴士氏（大阪府教育委員会）を加えて、活発なパネルディスカッションがおこなわれ、住友銅吹所跡発掘調査の意義を再確認した。

Ⅱ 大阪市文化財協会編『住友銅吹所跡発掘調査報告(1998年3月刊)の概要

1990年から1992年までの長期間、大阪市文化財協会はこの史跡の発掘調査をおこない、その成果を公刊した。きわめて多角的な視点 文献史学、冶金考古学、建築史学、金属精錬学、保存科学、考古学から分析し、総合的な考察をおこなった。あらためて大阪市文化財協会および住友銅吹所跡調査専門委員会の方々には心から敬意を表したい。この発掘調査で中心的に活躍された鈴木秀典氏が報告書作成の途中で急逝されたことは誠にいたましい限りである。ご冥福をお祈りしたい。

住友銅吹所跡の発掘調査は、江戸時代の産業技術や都市のすがたの一端を明らかにしてくれたが、とくに日本の銅の精錬技術の水準の高さを示してくれた。

この報告書は、第Ⅰ～Ⅲ章で本調査の概要、住友銅吹所の歴史が解説され、第Ⅳ章では本調査結果の全貌が詳細に解説されている。とくに、古代の遺構・遺物、豊臣期・徳川初期の遺構・遺物、住友銅吹所活動期の遺構・遺物が重層的に調査、解説されている。また写真、図版によって素人にもわかりやすく説明されている。また、この調査報告書が大阪の歴史記述や関連諸科学にいろいろな史実と影響を与えることであろう。この報告書は本文〔608+36+22頁〕、別冊〔図面36、原色図版(写真)121〕、付図5枚からなる。

内容目次

第Ⅰ章 調査にいたる経緯と経過

第Ⅱ章 調査の経過

第Ⅲ章 住友銅吹所の概要

第1節 住友銅吹所跡周辺の地理的歴史的環境

第2節 住友長堀銅吹所略史

1) 銅吹所の沿革と銅精錬業の歴史的意義

住友銅吹所跡保存運動の記録

2) 銅吹所の精錬工程、組織

第3節 『鼓銅図録』銅吹所関連図の抜粋

第4節 絵図にみる住友銅吹所および本家住宅の構造

1) 1861年作成の「御本家様御吹所様惣絵図」

2) 住友銅吹所の構造

3) 住友本家住宅の構造（「御本家様御吹所様惣絵図」による）

4) 絵図にみる吹所の変遷

第IV章 調査の結果

第1節 層序

第2節 I期（古代）の遺構と遺物

第3節 II期（中世）の遺構と遺物

第4節 III期（豊臣期～徳川初期）の遺構と遺物

第5節 IV・V期（住友銅吹所期）の遺構

1) 住友と平野屋

2) 地層

3) 精錬炉

4) そのほかの遺構

第6節 IV・V期（住友銅吹所期）の遺物

1) 陶磁器

2) 銅精錬関係遺物

3) 瓦

第7節 金属製品

第8節 骨・貝製品

第V章 遺構・遺物の分析同定とその検討

第1節 出土漆器資料の製作技法

第2節 住友銅吹所跡出土木炭の樹種

第3節 住友銅吹所跡出土の動物遺体

第4節 住友銅吹所跡の古環境変遷

第Ⅵ章 住友銅吹所跡銅精錬関連遺物分析報告

第1節 分析およびその検討

第2節 考察

- 1) 近世銅精錬工程関係史料
- 2) 住友長堀銅吹所の操業
- 3) 住友家に伝世する棹銅の赤色表面について 非破壊的手法による分析を中心に
- 4) 「小吹」の再現実験
- 5) 南蛮吹の冶金学的考察

第Ⅶ章 考察および遺構・遺物のまとめ

第1節 住友銅吹所跡の史的意義

第2節 住友家住宅の建築について

第3節 大阪の近世遺跡の調査と保存

第4節 住友銅吹所跡の諸問題

第5節 住友銅吹所跡出土の陶磁器 特にⅣ2期出土陶磁器を中心に

第6節 住友銅吹所跡出土の窯業関係文字資料

近世銅精錬関係用語集

英文目次・要旨

付記

私は生瀬克己氏の訃報に接し、その衝撃は大きかった。私は生瀬氏と同じ共同研究プロジェクトに参加したり、いろいろ交流があったからである。

生瀬氏と専門は異なるが、広義の歴史学という接点で、文化財の調査・保存・活用というテーマで生瀬氏の追悼号に投稿することにした。1990～2001年の住友銅吹所跡の調査・保存・活用についての記録をまとめる努力をした。現在も新潟県の佐渡金銀山の調査活動にかかわっている。

生瀬克己氏のご冥福を祈ります。